

演 題：牛の膀胱の腫瘍

機 関 名：神奈川県食肉衛生検査所 氏 名：川口絵梨

動 物 名：牛 品種：ホルスタイン種 性別：雌 年齢：190 か月齢

病 歴：起立不能のため、病畜として搬入された。

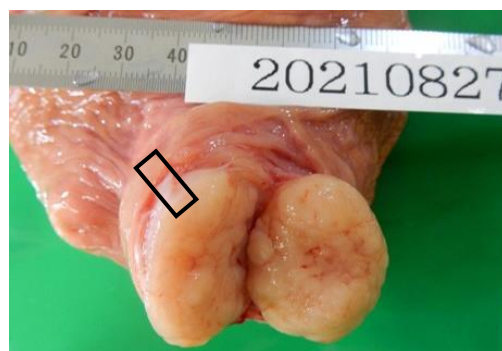
生 体 所 見：消瘦を認めた。

肉 眼 所 見：膀胱粘膜面では、膀胱尖近傍の腹側粘膜下に径 3cm の腫瘍を認めた。剖面では、同腫瘍は乳白色不規則分葉状で膨隆し、粘膜下に主座していた。出血及び壊死は確認できなかった。その他、心冠部脂肪組織、横隔膜及び腸間膜の水腫、肺の退縮不全並びに肝富脈斑を認めた。

組 織 所 見：膀胱の腫瘍部では、粘膜下組織から筋層にかけて、腫瘍細胞が増殖巣を形成していた。腫瘍組織と周囲結合組織との境界は明瞭であった。腫瘍組織を構成する腫瘍細胞には次の 2 種類を認めた。①紡錘形で好酸性からやや淡明な細胞質を有し、核は楕円形から円形の異型度の低い細胞。②紡錘形から多角形で好酸性の広い細胞質を有し、核は円形から不整形の異型度の高い大型の細胞。②の腫瘍細胞では、核が分葉状を呈するものや、核内細胞質封入体を認めるもの、2 個から複数個の核を有する巨細胞も多数認めた。①及び②の腫瘍細胞は種々の割合で混在し、腫瘍組織内で束状に配列していた。腫瘍細胞の壊死は認めず、有糸分裂像はまれであった。と銀染色では、個々の腫瘍細胞は細い好銀線維により区画されていた。PAS 反応では、腫瘍間質と一部の細胞が陽性を示した。腫瘍細胞の細胞質は AZAN 染色では赤紫色、PTAH 染色では青紫色を呈し、横紋は認めなかった。免疫染色では、腫瘍細胞は抗ビメンチン抗体、抗平滑筋アクチン抗体、抗デスミン抗体に陽性、抗ケラチン/サイトケラチン抗体 (AE1/AE3)、抗リゾチーム/ムラミダーゼ抗体、抗 s-100 抗体に陰性を示した。(抗デスミン抗体のみ Dako、その他はニチレイ)。

固 定 方 法：10%中性緩衝ホルマリン溶液

切り出し部位 (図示)



行 政 処 分： 全部廃棄 ・ 一部廃棄 (腫瘍)

組 織 診 断 名： 牛の膀胱の平滑筋腫

疾 病 診 断 名： 牛の膀胱の平滑筋腫